

まし市長に聞く

インタビュー「羽咋市を明らかに変えた4年間」

岸市長に、これまでの羽咋市の変化について伺いました。子育て支援の充実や新しい住宅地の開発により若い移住者が増加し、さらに「ラクナはくい」のオープンも注目されています。「消滅可能性都市」からの脱却を目指す羽咋市の取り組みを知っていただく機会となれば幸いです。



移住者が増加。なぜ？

統計史上初の「転入超過」はなぜ起こったのか？

——近年、羽咋市には若い移住者が増えているようですが、どうしてですか？

大きな理由は2つあります。

まず一つ目は、「子育て支援がかなり充実していること」です。羽咋市では、保育料が無料、小中学校の給食費も無料、さらに18歳までの医療費も無料です。この「3つのゼロ政策」を実現できている自治体は、ほとんどありません。

もう一つの理由は、「移住者が住むための宅地を開拓したこと」です。羽咋駅の近くや千里浜インターチェンジの近くで、「千里浜ヒルズ」などの新しい住宅地を作りました。

つまり、羽咋市に「住みたくなる理由」と、そのための「受け皿」を作ったことが大きな要因になっているのだと思います。



▲千里浜ヒルズでは52区画が完売。

——「地方だと仕事の選択肢が少ないので、なかなか住みづらい」との声もありますが、羽咋市ではどうなのでしょう？

「働く場所」はとても大切な要素です。羽咋市はこれまで、企業を呼び込んだり、起業したい人を応援する取り組みを行ってきました。しかし、羽咋市の本当の強みは「立地」にあります。羽咋市は、金沢や七尾、高岡といった大きな街から車で1時間以内で通勤できる距離にあります。これを生かして、「仕事は他の街、でも住む場所は羽咋市」という生活スタイルを選ぶ人も多いのです。

さらに、コロナの影響でリモートワークを採用する会社が増えました。東京などの遠い都市にある会社で働きながら、羽咋市で暮らす人も増えています。

こうした人たちが快適に暮らせる環境を整えることが大切だと考えています。

——羽咋市から、金沢や七尾、高岡に通勤しやすくするために、国道整備を積極的に進めているということでしょうか？

国道整備には多くのメリットがありますが、「通勤時間の短縮」もその一つです。



▲国道整備促進のため、計71回の要望活動を実施。

特に、国道415号と159号の整備はそのため、**県議会議員や市議会議員とともに、何度も国会議員や国土交通省に対して要望活動を行ってきました。**ここ数年で道路の整備がかなり進みました。国、県、市の関係をしっかり築いて、スムーズに話し合えるようにすることが、こうしたプロジェクトを実現させる鍵だと感じています。

——今年の7月に「ラクナはくい」という施設がオープンしましたが、これによって移住者がさらに増える可能性はありますか？

もちろんです。ラクナの魅力の一つである屋内公園は、天候に関係なく子どもを安心して遊ばせることができる貴重な場所です。ここには市民だけでなく、周りの地域からもたくさんの家族が訪れています。羽咋市が住みやすい街だと外に発信するための拠点になっています。

また、1階のカフェスペースでリモートワークをする人たちも大勢います。コロナ以降、リモートワークが急拡大したことで、リモートワーカーが働きやすい環境を提供していくことも重要です。

新しい時代の、新しい働き方にも対応していくことで、羽咋市の魅力を高めていけば、移住したい人がさらに増えていくのではと期待しています。



▲7月に「LAKUNAはくい」がオープン。

財源はどこから？

拡大する予算規模。なぜそれが可能なのか？

——子育て支援や「ラクナはくい」の建設など、かなりお金を使っている印象がありますが、大丈夫なんでしょうか？

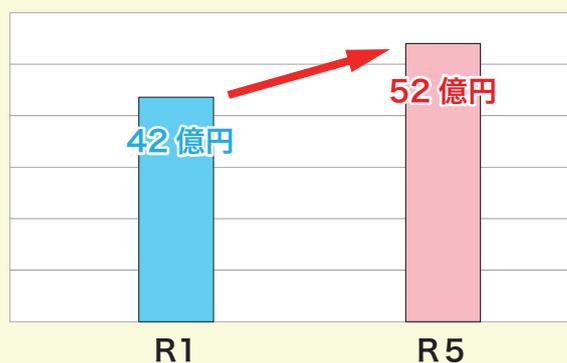
よく心配されることですが、実のところ羽咋市は黒字が続いています。この4年間で貯蓄（基金）が10億円ほど増えていきますし、借金の残高も減っています。羽咋市は黒字です。子育て支援や新しい住宅地の整備などで、使うお金が増えていますが、その多くは国や県からの補助金をうまく活用しているので、羽咋市の負担はそれほど大きくありません。

例えば、「ラクナはくい」の建設費は26億円ほどかかりましたが、その大部分は補助金でまかなっており、羽咋市が負担したのは15%ほどです。このように、必要な支出はしっかりと補助金を活用しながら進めていますので、市の財政も健全な状態を保っています。

——市政運営は順風満帆のように聞こえますが、何か課題はあるのでしょうか？

もちろん課題は多くあります。**大きな予算を使えるようになったことで、政策の規模も量も増えました。市役所職員の仕事量もかなり増えてしまっています。**これまでは職員の努力と、組織の効率化で何とか対応してきましたが、今後は震災復興も加速させていかなければなりません。

基金残高（一般会計）



▲羽咋市の貯蓄にあたる「基金残高」が4年間で増加

どれほど素晴らしい政策であっても、それを実現させるには組織づくりが必要不可欠です。人材の獲得や育成はもちろん、民間の力もさらに取り入れていく必要があると考えています。

震災復興の行方

復旧・復興に向けて、今後の羽咋市の動きは？

——能登半島地震が起きたときのことを教えてください。

地震が発生したのは、ちょうど妙成寺にお参りに行っていたときでした。五重塔が倒れるのではないかと思うほどの大きな揺れで、ただ事ではないと感じ、すぐに羽咋市役所に向かいました。津波警報が出ていたため、道中では多くの車が高台に向かって避難しようとして大渋滞が起きていましたが、裏道を通って何とか辿り着きました。

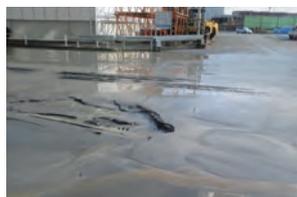
市役所に到着すると、多くの避難者の方々が集まっていました。元旦ということもあり、まずは市役所職員を急いで集めなければと思っていましたが、幸いにも多くの職員が自主的に市役所に集まってくれていました。全員が被災している状況で、家族のそばにいたはずですが、それでも迅速に災害対応にあたってくれました。

すぐに災害対策本部を立ち上げ、被害状況の確認を行いました。道路が寸断され、建物も倒壊し、水道も使えない状態でした。

幸いにも電気は使える状態で、飲料水も備蓄がありましたが、下水道の破損は深刻な問題でした。トイレが流せないのです。復旧のため、国土交通省と連絡を取り合い、下水道の仮設復旧についての手順を決め、最優先で復旧作業を進めました。それでも仮設の下水管を通すまでには数週間程度かかるため、その間は国が手配してくれたバキュームカーで汚水を24時間体制で汲み上げました。



▲建物の倒壊や液状化など、甚大な被害があった



▲復旧に向けて、国や県から多くの支援をいただいた

——今後、どのように復興を進めていきますか？

8月末に羽咋市復興計画を策定しました。まずは、被災された方々の生活の再建が急務です。家が壊れた方々はもちろんのこと、震災で仕事を失った方や、事業に大きな損害を受けた事業者の方々も支援が必要です。特に農地への被害が甚大であるため、重点的な支援が求められています。

また、観光業の再建にも注力する必要があります。震災による風評被害の影響で、被害を免れた観光地でも来場客が少なくなっています。これに対応するため、県とも連携し、被災地の実情に合わせた確かな観光PRも行っていかなければなりません。

さらに、災害時には支援が届きにくい神社仏閣についても、修繕支援を行うべきだと考えています。羽咋市の神社仏閣には貴重な文化財が含まれており、コミュニティの拠点としての役割も担っています。これらの施設の復旧は、災害後の生活再建や住民の精神的なケアにおいて非常に重要です。

震災前の状態に戻すだけでなく、この復興をきっかけに、新たに強いまちづくりを進めていくことが重要だと考えています。今後も国や県と連携し、「未来につながる復興」を目指して努力してまいります。



▲観光地としても文化財としても貴重な妙成寺

羽咋市を明らかに変えた4年間

子育て支援

“3つのゼロ政策”で子育て環境が大きく改善

- ▶ 保育料ゼロ、給食費ゼロ、18歳まで医療負担ゼロ
- ▶ 子ども基金の創設
- ▶ 入学祝い金の創設

高齢者支援

高齢者やその家族が安心して暮らせる環境を整備

- ▶ 家族介護の支援を強化
- ▶ 高齢者のタクシー利用を助成
- ▶ スマートフォン教室の開催

デジタル化

行政サービス等の利便性を向上

- ▶ キャッシュレス決済やコンビニ納付の導入
- ▶ LINE公式アカウントの新設
- ▶ 電子回覧板の導入

まちづくり

宅地開発と道路整備で住みやすさが向上

- ▶ 千里浜ヒルズ開発
- ▶ LAKUNAはくいオープン
- ▶ 国道415・159号の整備が大幅前進

経済活性化

“なりわい支援”でビジネス環境を向上

- ▶ 起業や事業承継への補助強化
- ▶ 農業収入保険への加入促進
- ▶ UFO商品券の発行を大幅増

魅力づくり

観光や文化を向上させる政策を実現

- ▶ 妙成寺国宝化に向けて前進
- ▶ 外資系ホテルの誘致促進
- ▶ 女性のテレワークセミナーの開催

謝 辞

1月1日の地震発生以来、市民の皆様にはご不便をおかけしております。震災対応から現在に至るまで、多くの市民の皆様にご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

また、復旧・復興に向けてご尽力いただいている馳知事、稲村県議、羽咋市議会議員の皆様をはじめ、関係者各位、そして市民生活の再建と安全を守るために尽力してくださっている羽咋市職員の皆様にも、深く敬意を表します。

皆様の献身的な活動のおかげで、羽咋市は復興に向けて着実に前進しており、多くの市民が勇気づけられていることと思います。今後も引き続き、共に力を合わせ、羽咋市がより強く、災害に負けないまちづくりを進めていけるよう努力してまいります。

改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

羽咋市長 岸 博一

